

# 2015年度のボランティア・NPO 活動センターをふりかえって

センター長 伊達浩憲

龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターの設置の目的は、「ボランティア活動を通じて、相互に学び合うサービス・ラーニングという共生の理念を具現化し、本学の教育研究に寄与する」（規程第2条）ことにあり、「ボランティア活動を通じた学び」に力が置かれています。

この目的を達成するために、当センターは、学生スタッフ・職員・教員の3者で運営されています。年3回の合宿、毎月の定例会議、ミーティング等を通して、学生スタッフの知識やスキルの向上、人間的成長等を図れるように支援しています。また、学生一人ひとりがセンター運営に積極的かつ充実感を持って参画できるように、教職員と学生スタッフとが協働して取り組んでいます。

本年度も、国内外のNPO・NGOなどの市民活動団体、浄土真宗本願寺派、地方自治体等と連携し、学生・教職員のボランティア活動の振興を図る事業を実施してきました。

## 1. ネパール大地震への取り組み

2015年4月25日のネパール大地震の発生後、本学学生の呼びかけにより募金活動を行ってきました。学生、教職員、親和会、校友会等の支援を得て、85万3000円の義捐金が集まりました。この義捐金は、カトマンズ本願寺を通じてネパールの被災者に届けられました。

## 2. 東日本大震災への取り組み

東日本大震災の復興支援の取り組みとしては、当センターが中心となり、2011年度から継続して、宮城県石巻市雄勝町で学生・教職員がボランティアを行っています。現地の方々と連携し、被災地の現状を十分に把握した上で、支援活動を進めています。今年度も、8月と10月に雄勝町へ「ボランティアバス」を運行し、学生・教職員合計65名が現地での活動を行いました。（被災地でボランティア活動を行う学生に対する支援金として、文学部教授会から多額のご寄付をいただいております。）

また、今年度初めての取り組みとして、筒井のり子社会学部教授（副センター長）の企画・コーディネートにより、「福島を“今”を見、福島を生きる人々の“言葉”を聴き、“自分”を見つめる」をテーマに、福島スタディツアーを実施しました。

活動後には、被災者の状況を多くの学生に伝え共有する機会として、瀬田、深草両キャンパスにて活動報告会を開催しました。

震災から5年が経過する中、東日本大震災の被災者一人ひとりに寄り添い続けることを確認

し合う機会として、「“復興”に寄り添う」と題して、「復興支援フォーラム2015」を開催し、200名を超える方々に参加いただきました。



## 3. ボランティア活動の振興

ボランティア活動に対する理解促進の取り組みとして、教養教育科目「特別講義 ボランティア・NPO 入門」を開講し、223名の学生が受講しました。

また、学生の日常的なボランティア活動の振興・深化を目的に、市民活動の分野で活躍する方々を講師にお招きし、学生スタッフを含む本学学生を対象に、「ボランティア入門講座」（前期に全3回）、「ボランティアリーダー養成講座」（8月と2月に各1回）を実施しました。加えて、日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）との共催により、「ボランティアコーディネーション力3級検定」を実施しました。

国内外の市民活動を視察し体験する機会として、海外体験学習プログラムを実施し、西倉一喜法学部教授が企画し引率する台湾スタディツアー、公益社団法人・全国愛農会が主催するインド共和国スタディツアー、そしてツナミクラフトが主催するタイ王国スタディツアーを実施し、計17名の学生が参加しました。

国内プログラムでは、前述の福島スタディツアーおよび丹後スタディツアーを実施し、計47名の学生が参加しました。

当センターの日常業務の多くは、本学学生と地域社会をつなぐボランティアコーディネーションです。地域住民、行政、自治会、NPO・NGO 団体等との関係強化を図り、各種事業への参加を促進したことにより、多くの学生が地域でのボランティア活動を行いました。また、学内サークルに対しては、助成金情報の提供や地域イベントへの参画につなげる等の支援を行いました。

今年度も広報の強化につとめました。SNS、メールマガジン、ホームページ、本学ポータルサイト、ニューズレター、授業でのセンター紹介、学内立看板等による情報発信を活発化し、学内外でのセンターの認知度向上を図りました。

以上のような多種多様な活動を実施することができたのも、センター運営に携わる学生スタッフ、教職員、そして学内外の関係者の皆様のご支援・ご協力の賜物であります。改めて厚く御礼を申し上げます。